

野菜畑作生産情報 第2号

平成28年5月19日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦の出穂期が早まっているので、赤かび病の適期防除に努めましょう！
◎野菜の生育が早まっているので、適正管理を徹底しましょう！

畑作物

1 小麦

(1) 生育状況

- ア 草丈は平年を上回り、茎数は下回っている。
- イ 出穂期は、幼穂形成期以降の気温が平年並から高く推移したことから、平年より5～7日程度早まっている。
- ウ うどんこ病の発生は平年より多く、茎数の多いほ場で目立っている。

表-1 小麦の越冬後の生育状況（5月10日現在）

場所	年次	ネバリゴシ				キタカミコムギ			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月/日)	出穂期	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月/日)	出穂期
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	62.7	478	3/19	5/15	68.9	550	3/24	5/17
	平年差・比	(144%)	(73%)	(早25日)	(早7日)	(140%)	(89%)	(早22日)	(早7日)
	平年	43.6	654	4/13	5/22	49.3	621	4/15	5/24
野菜 研究所 (六戸町)	前年	47.1	475	4/9	5/16	52.2	473	4/15	5/21
	本年	71.9	834	3/19	5/16	/			
	平年差・比	(127%)	(89%)	(早12日)	(早6日)				
平年	56.8	935	3/31	5/22					
つがる市 (旧木造町)	前年	81.6	912	3/17	5/10	74.4	435	3/14	5/15
	本年	70.4	572	3/15	5/15	(127%)	(80%)	(早18日)	(早6日)
	平年差・比	(132%)	(90%)	(早10日)	(早5日)	58.6	543	4/1	5/21
十和田市	前年	72.1	558	3/8	5/10	70.6	398	3/9	5/12
	本年	64.7	1,133	3/18	5/18	/			
	平年差・比	(150%)	(140%)	(早16日)	(早5日)				
平年	43.1	810	4/3	5/23					
十和田市	前年	67.5	988	3/15	5/10	/			

- 注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(旧木造町)、十和田市は生育観測ほの調査成績。
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」がH18～H27年産(H24年産(出芽不良)を除く)の過去9か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H27年産(H24年産(出芽不良)を除く)の7か年、つがる市(旧木造町)と十和田市の「ネバリゴシ」が過去14か年、つがる市(旧木造町)の「キタカミコムギ」が過去20か年の平均値。
③出穂期は、聞取調査の結果。()内は見込みの月日。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生した直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは、赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、出穂後は使用しない。
- イ 赤かび病は、収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒を含むため、赤

かび粒の混入割合が1万粒に4粒を超えると流通できなくなるので、開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。防除後、天候不順が続く蔓延のおそれがある場合は追加防除を行う。

ウ 湿害防止のため、排水口や明きよの点検補修を行いほ場の排水に努める。

エ 生育が遅れ、出穂期に達していない場合は、一穂粒数を確保しタンパク質含有率を高めるため、2回目の追肥を出穂期までに行う。追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(平成19年度指導奨励事項・指導参考資料等の「小麦ネバリゴシのタンパク質含有量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる」を参照)

オ 出穂期が早まっているため、収穫期も早まることが予想される。今後の登熟状況に注意し、6月下旬以降の収穫に備える。

野菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア りん片分化期は、平年より6日から11日早く到達し、生育は県全域で平年を上回っている。

イ ほ場の乾燥、強風による葉先枯れが見られる。

ウ 春腐病の発生は平年より少なく、さび病の発生は平年よりやや多い。

表-2 にんにくの生育状況(5月10日現在)

場所	年次	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (mm)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)	備考
野菜研究所 (六戸町)	本年 (並年比)	96.1 (122%)	12.1 (119%)	22.2 (112%)	4/12 11日早	— (—)	透明マルチ
	平年	78.6	10.2	19.8	4/23	6/22	
	前年	95.1	12.7	20.7	4/13	7/4	
藤崎町 若松 (旧常盤村)	本年 (並年比)	65.5 (121%)	7.5 (115%)	19.0 (107%)	4/24 6日早	— (—)	無マルチ
	平年	54.0	6.5	17.7	4/30	7/2	
	前年	51.2	6.4	13.6	4/24	6/28	
七戸町 榎林 (旧天間林村)	本年 (並年比)	80.3 (134%)	8.1 (111%)	23.3 (134%)	4/14 11日早	— (—)	グリーンマルチ
	平年	60.1	7.3	17.4	4/25	6/29	
	前年	81.7	8.3	23.3	4/19	6/22	
田子町 日ノ沢	本年 (並年比)	71.1 (114%)	8.4 (111%)	18.6 (103%)	4/15 9日早	— (—)	グリーンマルチ
	平年	62.2	7.6	18.0	4/24	6/29	
	前年	76.1	8.7	19.5	4/18	6/17	

- 注) ①平年：藤崎町は平成9年～27年の19か年の平均値。
七戸町は平成8年～27年(平成25年を除く)の19か年の平均値。
田子町は平成8年～27年の20か年の平均値。
- ②種子：藤崎町は福地ホワイト(15～20g)。
七戸町は白玉王(10～11g)。
田子町は白玉王(10～12g)。
- ③葉数：野菜研究所は抽出葉数。
藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 今後の見通し

りん片分化期が平年より早く、生育も平年を上回っていることから、収穫期は平年より早くなると予想される。

イ 病害虫の適期防除

(ア) 春腐病は、降雨や濃霧が続くと急増するので、天気予報で3～4日曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前の予防散布を徹底する。また、腐敗が進行している株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。

(イ) さび病が発生しているほ場では、効果持続期間が長い薬剤を散布して、病勢の進展を抑える。

(ウ) 葉枯病、黄斑病、白斑葉枯病、ネギコガなどは、ほ場を見回り、早期発見・早期防除を徹底する。

ウ とうの摘み取り

抽だいが始まったら、随時とうを摘み取り、球の肥大を促す。とうの摘み取りは、珠芽が葉鞘から完全に抜け出してから行う。

2 ながいも

(1) 今後の農作業の留意点

ア 基肥は、早植栽培及び普通栽培ともに、窒素利用効率が高い萌芽期施肥とし、萌芽が50%の頃に、窒素成分で10a当たり6～10kg施用する。

イ 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植え付ける。ただし、切りいもは5月下旬からとし、切断後早めに植える。

ウ 覆土は、植付け後速やかに6cm程度の厚さで行う。2～3週間後に、さらに6cm程度培土する。

3 春夏にんじん

(1) 生育状況

ア 生育は平年を上回っている。

イ 病害虫の発生はほぼ見られない。

表－3 春夏にんじんの生育状況（5月10日現在）

場所	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)	備考
六戸町 犬落瀬	本年 (平年比)	3/6 11日早	18.7 (117%)	6.5 (144%)	15.7 (121%)	10.9 (161%)	5.2 (276%)	透明ポリ トンネル
	平年	3/17	16.0	4.5	12.9	6.7	1.9	
	前年	3/16	19.3	5.7	18.5	9.9	4.8	

注) ①平年：平成18年～27年の10か年の平均値。

②品種：平成18年は「彩誉」、平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～27年は「彩誉7」

(2) 今後の農作業の留意点

ア 間引き

トンネル栽培では本葉5～6枚時まで、べたがけ栽培では本葉3～4枚時まで1本立てとする。なお、次のような株は間引きする。

- ① 葉色が濃すぎるもの
- ② 葉が粗剛で刻みの大きいもの
- ③ 葉数が多すぎるもの
- ④ 生育が極端に良すぎるもの、または悪いもの
- ⑤ 病害虫の被害があるもの

イ 温度管理

(ア) トンネル栽培では、高温障害を防ぐために温度管理を徹底する。

- ① 4葉期まで：30℃以下 ② 5葉期～：25℃以下
- ③ 5月下旬：順化（裾、裾は開けたまま）
- ④ 6月上旬：除覆（平均気温15℃以上）

(イ) ベたがけ栽培では、本葉5～6枚時を目安に除覆する。ただし、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。

ウ 追肥

(ア) トンネル栽培では、本葉5～6枚時に、窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度の追肥を行う。

(イ) ベたがけ栽培では、本葉3～4枚時に、窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度を追肥し、本葉5～6枚時にも同様に行う。

4 春だいこん

(1) 生育状況

- ア 生育は平年を上回っている。
- イ 病害虫の発生はほぼ見られない。

表－4 春だいこんの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年 (平比)	3/12 9日早	39.5 (105%)	23.0 (110%)	434 (208%)	透明ポリマルチ+ 透明ポリトンネル
	平年	3/21	37.5	20.8	208	
	前年	3/15	40.6	25.5	538	

注) ①平年：平成18年～27年の10か年の平均値。
②品種：春の星

(2) 今後の農作業の留意点

ア 収穫

根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。

イ 病害虫防除

キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。

5 ばれいしょ

(1) 生育状況

植付期は平年より21日早く、萌芽期は平年より12日早かった。萌芽後の生育は順調で、平年を上回っている。

表－5 ばれいしょの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 三 沢	本年 (平比)	3/21 21日早	4/25 12日早	22.6 (551%)	2.5 (208%)
	平年	4/11	5/7	4.1	1.2
	前年	3/29	4/28	15.2	2.5

注) ①平年：平成16～19年、平成21～24年、平成26～27年の10か年の平均値。
②萌芽期の平年：平成16～17年、平成21～24年、平成26～27年の8か年の平均値。
③品種：メーカーイン

(2) 今後の農作業の留意点

ア 培土と追肥

1 回目の中耕・培土は草丈 10 cm 頃を目安に行う。2 回目は、着蕾期（40～50%の株が蕾を着ける時期）に窒素成分で 10 a 当たり 4～5 kg を追肥してから行う。

イ 病虫害防除

6 月中旬以降になると病虫害が発生しやすくなるので、早期発見・早期防除に努める。

なお、疫病の防除は予防散布を徹底するとともに、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤をローテーション散布する。

6 メロン

(1) 生育状況

トンネル栽培（4 月下旬～5 月上旬定植）では、4 月下旬の降雨や 5 月初めの強風により、定植作業は平年より 3～5 日程度遅れている。定植後の活着は良好で、生育は概ね順調である。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 温度管理

トンネル内の温度は 15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。

イ かん水

乾燥による生育抑制が懸念されるほ場では、かん水に努める。

ウ 整枝・着果

(ア) 子づる 2 本仕立てとし、うねと直角方向に誘引する。着果節位は子づるの 10～15 節とし、子づる 1 本当たり 3～4 果連続で着果させる。子づるは 22～25 節前後で摘心する。

(イ) 孫づる（わき芽）は、着果節位までは早めに全てを除去し、着果節位の孫づるは、開花期前後に 1～2 葉残して摘心する。着果節位より上の孫づるは、順調な生育状態では全て除去するが、草勢が弱い場合は 1 葉を残して摘心する。つる先の 2～3 本は、生育調節のために残しておく。

エ 交配

着果節の開花 7 日前までにミツバチの巣箱を畑に設置し、蜂の訪花活動を促す。

蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。人工交配は、雄花の花粉を直接または筆で雌花の柱頭に軽く付ける。また、不順天候の場合はホルモン処理を併用する。

オ 摘果

果実が鶏卵大（着果後 7～10 日）の頃に、形状の良いものを子づる 1 本当たり 2 果残す。

~~~~~  
◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。  
~~~~~

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
~~~~~

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)  
~~~~~

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

- 1 70歳以上の方による農作業事故が増加しています。農作業は焦らず、急がず、慎重に！
 - 2 機械操作や高所作業等においては、ヘルメットを着用しましょう！
 - 3 万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済等に加入しましょう！
-
- ~~~~~

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5078
直通	017-734-9481
